

子どもの本だな 61

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### こねこのトムのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え  
いしい ももこ やく (福音館書店)

あるところに、ミトン、トム、モペットという3びきのこねこがいました。お茶の会の日、3びきはきゅうくつなよそ行きの服を着て庭で待つようにいわれました。ところが、つきやまを登っていくうちにミトンとモペットの服の衿はずれ、トムの服のボタンははじけとび、帽子も石垣の下へ落ちてしまいました。そこへ、びた ぱた ぱたり びた とアヒルたちがやってきて落ちていた服を身にまもって行ってしまいました。

柔らかい色調の水彩画を背景に、登場人物が表情豊かに、いきいきと描かれ、ユーモアのある切れの良い文章が耳に心地よくひびきます。子どもたちはトムになってハラハラしながら物語を楽しみます。読んでもらえば4歳くらいから。(西村)

### こぎつねルーファスのぼうけん

アリソン・アトリー作 石井 桃子訳 (岩波書店)

おなかをすかせて泣いていた赤ギツネのみなし子ルーファスは、アナグマおくさんに見つけられ、一家の養子になりました。ルーファスはいつも「ぼく、きけんだいすき。」と、アナグマの子どもたちの先頭に立って冒険にでかけます。ある晩、ルーファスは、森の小川にいる白鳥を見ようと家をぬけだしました。ところが、大ギツネに狙われる白鳥を助けようとしてつかまってしまい、箱におしこまれました。ルーファスは、どんな錠もあけられるカエデの実のかぎとおまじないの言葉で箱をあけ、アナグマたちの待つ家に帰ることができました。(「こぎつねルーファスとわるいおじさん」)

他に「こぎつねルーファスと魔法の月」を収録。再び大ギツネにつかまりかけたルーファスは、月や星の不思議な力に助けられ機転を利かせて危険を乗り切ります。ユーモラスな挿絵が、元気にとびはねるルーファスにぴったりです。読んでもらえば5歳くらいから。続編に『こぎつねルーファスとシンデレラ』があります。

(片木)

11月	12月	11・12月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	6日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
15日	13日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
22日	20日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

### お知らせ

#### <消しゴムはんこ教室>

消しゴムはんこでオリジナルかばんを作ろう!

- ・日時：12月2日(日)  
10:15~12:00
- ・講師：一穂さん
- ・場所：図書館 読書会室
- ・対象：小学4年生以上(10名)

\*申し込みは図書館まで。  
\*材料費が必要です。

# 『人間の解剖はサルへの解剖のための鍵である』 吉川 浩満 著

河出書房新社 355頁 2018年7月刊 2,200円 (請求記号) 002

「本書は、現在生じている人間観の変容にかんする調査報告である。」と著者は述べている。「人間観」とは、人が「人」とは何かを考へるにあつての見方を意味している。また、人間観の変容を引き起こしている原因について、認知と進化に関する最新の科学を取り上げている。著者は、認知科学や社会生物学などといった多面的な視点から、人間と人間観について考察し、私たちの人間に対する考え方が変わってきていると主張しているのである。

では、人間観はどのように変化しているのだろうか。そもそも人間とはなにか。著者は、『サピエンス全史』(ユヴァル・ノア・ハラリ著)の中にある、「フイクションを信じる能力」が、人間が人間である一因であると指摘している。また、人間の定義は、時代や場所によつて様々に異なるとも述べる。その例として聖書と哲学者ニーチェの人間観を挙げている。聖書において、人間は神によつてつくられた存在である。対してニーチェは、人間は動物と超人(人間の理想像の限界)の間の綱だと主張する。二十一世紀の現代においてはどうか。宗教でも哲学でもなく、科学技術文明が人間の再定義を迫っていると著者は訴へる。そのうえで、動物行動学者であるドーキンスの言葉を借りて「人間とは不合理なロボットである」と定義づける。人間とは遺伝子が操縦する他律的な存在だといふのだ。また、認知心理学者であるスタノヴィッチの主張を例に挙げ、行動の融通は利くが結果が保証されないという不合理性が特徴のロボットが人間であると述べ、人間観の変容について、ひとつの回答を示している。

著者は本書を、現在執筆中の『人間本性論』(仮)の副産物であると述べる。そのため、本書の文章構成は、インタビューや討議、品評など様々である。にもかかわらず、一貫して人間観について論理的に述べられている。読み終わった後に私の頭には、フィリップ・K・ディックのSF小説の世界が思い浮かんだ。SF小説のテーマとして頻りに登場する「ポストヒューマン」の存在が現実味を帯びてきたような、そんな説得力をこの本から感じた。(光藤)

## 11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	<del>5</del>	<del>6</del>	7	8	9	10
11	12	<del>13</del>	14	15	16	17
18	19	<del>20</del>	21	22	23	<del>24</del>
25	26	<del>27</del>	28	29	<b>30</b>	

## 12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	17	<del>18</del>	19	20	21	22
23	24	<del>25</del>	<del>26</del>	27	28	<del>29</del>
<del>30</del>	<del>31</del>					

\* カレンダーの×印は休館日

\*  は館内整理日  
返却のみ受付  
(10:00~17:00)

\* 開館時間は  
10:00~18:00  
金曜日は  
20:00まで開館

## 地下水

学期に1回、各小学校へ出向き、クラスごとに1時間をもらって、2年生にはストーリーテリング(素話)、5年生にはブック・トーク(本の紹介)をしている。2学期、斑鳩小学校の3年生と4年生のクラスにも行くことになった。先日、4年生にロシアの昔話を語った時、主人公が機転をきかせて危険を逃れた場面で、ひとりの男の子が「かしこいなあ!」とつぶやいた。低学年に語ると、怖くて緊張する場面でも、4年生ともなると、くすつと笑える余裕もみえて、年齢によつて楽しみ方も広がるのだと実感した。何より、全員がお話の中に入り込み、それぞれの想像力を働かせてイメージを描けているのが伝わってきて、ゾクゾクと嬉しい時間になった。

『宇宙に命はあるのか』小野雅裕著(SB新書)に「イメージネーションとは見たことのないものを想像する力だ。常識の外に可能性を見出す力だ」とあり、想像力の目で未来を見た先駆者がいたからこそ、車も、電気も電話も、飛行機もロケットも、その他すべての技術が生まれたのだという著者の言葉に深く納得した。

映像や情報があふれる現代において、目に見えないものを見る「想像力」を養うために、ストーリーテリングや本の力は大きい。

(池田)

